

KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会 <http://www.j-kana.or.jp/> email: info@j-kana.or.jp

9

September, 2015

vol. 398

Contents

建築探訪…01

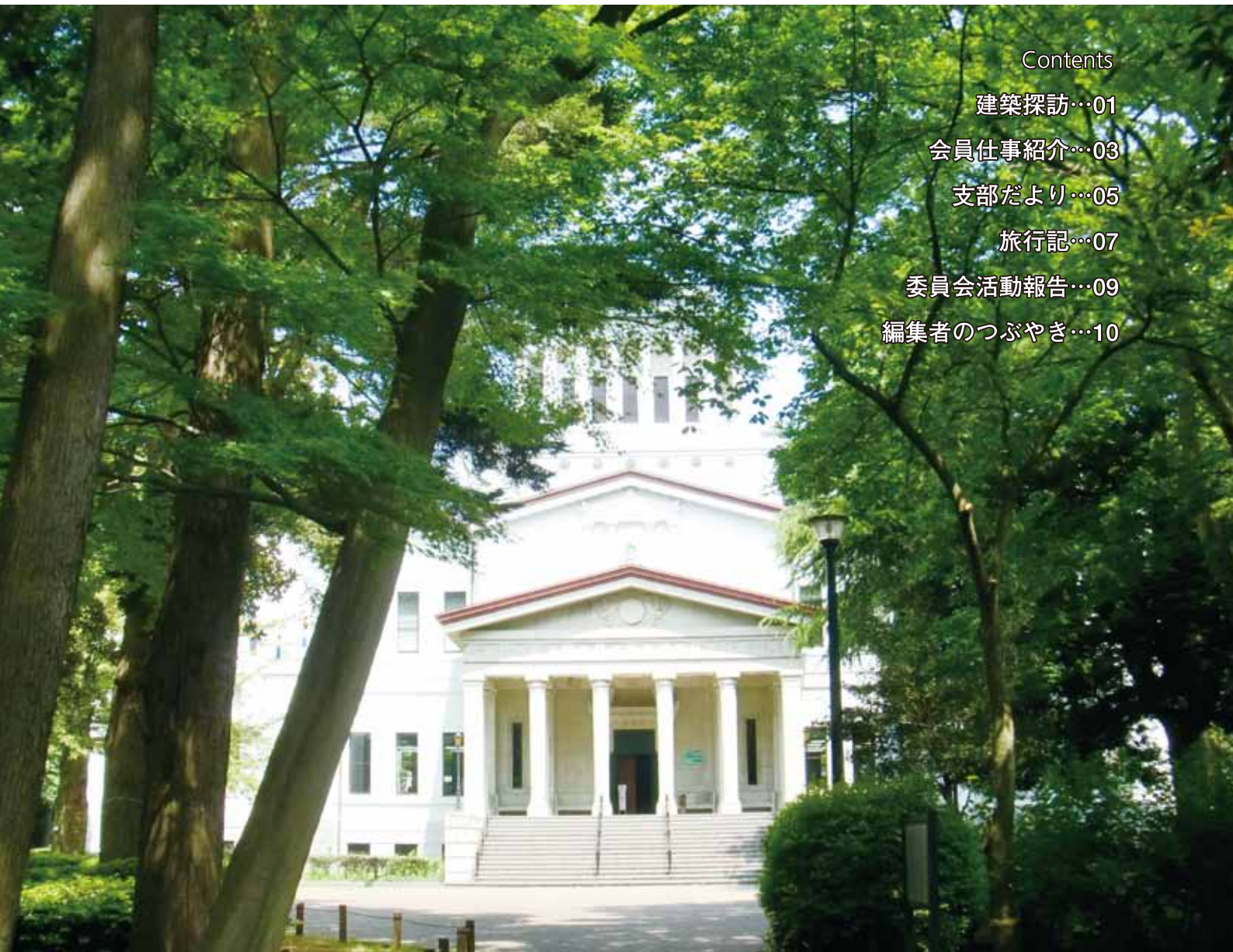
会員仕事紹介…03

支部だより…05

旅行記…07

委員会活動報告…09

編集者のつぶやき…10



建築探訪

まん だい かい かん 万代会館

京浜急行の津久井浜駅から徒歩5分の場所にある茅葺民家の万代会館は、かつてこの地が別荘地としての役割を担っていたことを思い起こさせます。海岸からも近く小高い丘の上にあるので、以前は津久井の海が一望できたことでしょう。4つの寄棟が雁行した平面形状となっており、私は南の庭からの眺めが大好きです。



横須賀支部 Archi-JAM Workshop 小山 美智恵

「万代会館」の看板を横目に門を入ると増築された玄関棟が見えてきます。



中に入るといつもにこやかに管理スタッフの方が出迎えてくれて、建物の説明をしてくれます。毎朝のお仕事はお掃除から始まるそうで、ガラスも床も家具もきれいに保たれています。

入口近く、二間続きの和室の「松の間」「竹の間」はそれぞれ炉が切っており、お道具もそろっているの、お茶のお稽古にも使われています。



1 万代会館は昭和初期の経済界で活躍した万代順四郎氏とその妻の遺志によってソニーの株券3万株と共に横須賀市に寄贈されました。万代氏は岡山県勝田郡の農家の二男として生まれ、青山学院に学んだ後、帝国銀行（三井銀行）の取締役会長、東京通信工業（現ソニー）取締役会長、トヨタ自動車工業相談役などを歴任した方で、トミ夫人の保養のため、気候温暖で水質良好の津久井の地に移り住んだそうです。

（「種蒔く人 万代順四郎の生涯」より）



サンルームのような応接間からは、広い庭が見渡せてゆったりとした気分に入ることができます。波打つ手すりガラスを通して見る景色はとても温かく、心が落ち着いてくるのがわかります。天井は杉皮に白樺の小丸太を竿縁にした勾配天井となっています。



お隣の「梅の間」は障子から外を眺めることができますとても風情のある造りとなっています。すぐ上に庇があるため、障子だけの窓でも雨が直接あたりません。ここからはよく基石を打つどこか懐かしくて心地よい音が響いてきます。



どのお部屋からも広い庭の景色を眺められる設計で、春の桜に始まり、タケノコ、月見草、アヤメ、アジサイなど四季折々の草花、鳥や虫の声を楽しむことができます。

広大な庭には東屋があり、暑い夏でも涼みながらひとやすみすることができます。ハイキングや散歩の途中で立ち寄る方も増えたと聞きます。

高台に位置する万代会館は地域の方の防災拠点としての役割も担っています。



現在は、ボランティアの方の力で老朽した部分の補修や清掃作業を行っています。



苦学生であった万代氏は、青山学院大学にも多大な額の奨学基金を作るなど、教育や文化、福祉に貢献したいという思いがとても強かったそうです。建築的要素のみならず近代日本や横須賀の歴史及び時代背景と万代順四郎という人物を探ることはとても興味深いことです。

ここ数年は秋に開催される湘南邸園文化祭にも参加しており、今年も10月3日(土)に水沼淑子氏による講演「横須賀の近代と住まい」やお抹茶席、琴演奏、寄席とともに建物案内のイベントがあります。百聞は一見にしかず、多くの方に知っていただく、良い機会となることでしょう。

私は時々、日常の喧騒から逃れるべくこの地を訪れます。井戸の底から這い出るべく、晴れやかな気持ちでまた元の場所に戻ることができるのです。ここは私の秘密の Powerspot です。

1900年代に建てられた木造建築再生プロジェクト～画廊パンプキン～ 福島県金山町 川崎支部 株式会社アービア設計事務所 白石 巖

この建築が行われたのは福島県金山町、只見線会津中川駅にほど近いこの地は、朝日新聞創刊130周年・森林文化協会創立30周年記念事業「日本の里100選」に選ばれた、奥会津を代表する景勝地だ。

対象となる「里」の選定基準は「1」景観「2」生物多様性「3」人の営みの3要素において総合的に評価して、すこやかで、美しい里として選ばれた地域です。

日本の里に選ばれた風景、奥に見える水面は只見川（矢印が画廊パンプキン）



水田に映る画廊パンプキン



3

玉石に土台を据えた足元



一部の土台は朽ち果てている



外周部を新たな在来軸組で囲った補強計画



新設基礎 新設軸組 既存部分 減築部分

収蔵と、町の人々に公開する展示スペース、及び住宅部分である。

既存建物は道路に接して建っていた為、車寄せが出来るように前面道路側を二間分を減築後退した。

構造体は既存軸組の廻りに新たな基礎、土台、柱を添えて抱え込むようにした後で、ジャッキなどを使って歪みを直し、新旧の柱をボルトで縫い合わせた。耐震壁は新しい軸組に、筋交い+合板という現代の軸

このような地域において建物は風景の一部として受け入れられるものでなければならない。

建築主の画家、長谷川瑞吉氏（68才）の生家でもある100年を超える伝統木造のこの家は、日本において社会問題化している空き家住宅の中でも横綱級の長寿命住宅である。しかしその保存状態はというと、玉石に敷土台を据えただけのもので3.11の震災にも耐えている。豪雪地帯のこの地域では長い

間、土台廻りは湿潤な状態にさらされる。さらに一部の土台は朽ち果てる寸前、外壁は漆喰壁が露出した杉下見板張り、建物のゆがみも相当なものであった。

“一般的な話をすれば、異口同音に建て替えたほうが安いし早いでしょう”となる。しかしこの地域における古い家並みは田園風景に調和した佇まいである。この事業における構想は、困難であっても古いものを活かし、地域社会との調和を図りながら再生させる道筋を提案した。

設計条件は、画伯が所蔵する絵画の

旧軸組のゆがみ直し



在来軸組による補強



1938年増築時の写真



冬は二階の床まで積もる豪雪地帯



初期の建築架構



組みと伝統木造のハイブリット構造である。内外装は地元福島のスギ板をふんだんに使うことが出来た。

新旧の取り合いは様々な所で困難な工事であったが、地元の素晴らしい職人の方々の匠の技に助けられ、今春着工より約一年掛けて無事竣工した。

この事業の成功には建主である長谷川家の人々のご協力のもとより、もう一方、偶然の出会いに支えられた。

それは私が、設計人生の駆け出しの頃、東京の設計事務所で机を並べていた友人の横田氏が先代の後を次いで、この地元金山町で工務店経営をしていた。

互いに退職してから約40年の月日が流れ、出会うことは無かったが年賀状のやりとりは続いていた。

設計終盤になった頃、見積り先を探す段階になったある日、たしか福島県の何処かに古い友人が居たなという話になり、奥会津で人脈など全く無い小生と旧知の友人が地元金山町で劇的な再会をした。まさに渡りに船、予算的にも困難な仕事であったが快く請け負ってくださり、職人の方々と共に見事にやり遂げていただいた。

真に感謝に耐えません。

竣工のお披露目を前にした5月中頃、南側に広がる田植え前の水田に写る画廊パンプキンの姿は、里の景観に少しだけ四季の色をイメージしたアクセントを加えた。

内部ギャラリー



YouTubelに動画を公開しています
～画廊パンプキン～

1900年代に建てられた木造建築再生プロジェクト
<https://www.youtube.com/watch?v=jPR8oFKS6us>

支部だより 相模原支部 支部研修旅行

相模原支部 杉本 勝郎



郡上八幡城

さる6月26日・27日。梅雨空の中、支部研修旅行を執り行いました。行先は、清流と水の城下町 郡上八幡と、博物館「明治村」です。

参加者は、17名。午前7時にJR相模原駅前に集合。迫りくる西からの梅雨前線に逆らうがごとく貸し切りバスを進ませましたが、郡上八幡到着直前から、雨が降り出してしまう始末でした。

郡上八幡城は、木造再建城としては日本最古の昭和8年築造で、皆降りしきる雨もものともせず視察にのめり込んでゆきました。急峻な山の頂上に位置するこの城は、典型的な山城として規模は小さいのですが堂々とした姿でした。

城下町に降りると雨の中つかの間の散策を楽しみ、ホテルに入りました。ホテルでは温泉で日頃の疲れを癒し、有志が郡上踊りの手ほどきを受け終了証を獲得する一幕もありました。



ホテル郡上八幡にて



帝国ホテル前にて

翌28日は、雨も上がり一路明治村へと進ませます。明治村では、自由行動でしたが、やはりライトの帝国ホテルに吸い寄せられてしまうのはさすがです。

記念撮影をして個々思い思いの方向に。今では67軒の建物が移築されゆっくり廻っていたら1日でも見きれないここ明治村ですが、時間がたつのも忘れた2時間半でした。

毎年このような会員の親睦深める為の研修旅行ですが年々参加者が減っている現状を考えると運営・実施・企画について問題点が山積しているのも事実です。来年は会員増強につながるくらい魅力あふれる研修旅行に出来ればイなと思いを馳せつつ筆をおきます。

支部だより みのが大日堂保存活動

秦野支部 支部長 田代 茂夫

秦野市の登山口として知られている蓑毛、最近はスポーツサイクルのメッカにもなっている。



十王堂の内部に並ぶ木彫の十王像

ここに大日堂と呼ばれるお寺がある。県道沿い脇の仁王門をくぐると正面に大日堂、右手に石段があり石段を上ると不動堂、その右わきの石畳の先には十王堂（閻魔堂）が建てられている。これらを総称し秦野では大日堂と呼ばれている。



大日堂内部の彫刻も美しい

その名の通り中心になるのは大日堂で、境内の中央に物静かな美しさでたたずんでいる。大日堂を支えるあせた弁柄色の丸柱の間には十二支の彫刻が歴史を物語っており、仁王門とともに江戸時代に再建された姿を残している。不動堂と十王堂も同様ではあるが老朽化が著しく、昭和に入っの補修で外部からは本来の面影はほとんど見ることが出来なくなっている。



大日堂をバックに米国バサデナからの団体も見学



大日堂に彫られた十二支の寅

堂内には神奈川県指定、秦野市指定文化財を含め20体以上の貴重な仏像が安置されている。

一部の会員とともに5年ほど前からこれらの建物、仏像の保存活動に関わっている。もちろんこの管理寺である宝蓮寺のご住職の意向に沿っての活動ではあるがその道は険しい。



2011年に開催された閻魔大王フォーラム だ未調査であり謎に包まれている。縁起によれば聖徳太子の側臣として活躍した秦河勝が朝鮮から運んだ不動明王像をここに納めたとの記録もある。秦野の地名と大きなかわりがあったであろうことも否定はできない。



十王堂に安置された閻魔大王

また宝蓮寺に残された絵図によると大日堂を中心に約23万平方メートルの敷地にたくさんの御堂、宿坊があり300名を超す修行僧が修行をしていたようである。

この地に秘められた歴史には益々興味がわいてくる。



大日堂境内で実施された発掘調査

旅行記

「4月のPARISにて」 川崎支部 エス・イー・エス岡田コンサルティング 岡田 泉

本年4月はじめ、2週間ほどパリに滞在しました。4月とはいえ、太陽が出ないとまだ寒い日々でしたが、いくつかの街と建物をめぐってきました。尋ねたところはどこも桜やレンギョウが盛りのカラフルな街でした。4月5日は復活祭、どこ教会も祭壇を花で飾り、チョコレート屋さんは卵、鶏、うさぎと子だくさんな動物を模った品を店先に並べ、やっと春が来ることと併せて街中にぎやかな雰囲気であふれていました。

●ルーブル・ランス_Louvre Lens

Lensローンズが正しい発音だそうです、切符を買うにも車内放送も当然こちらです。パリから特急で北へ約1時間、炭鉱の街の再興を



狙って計画されたようですが、2つのボタ山を背景に、麓に炭住街を置いた丘に建つ不思議な建物です。



壁に貼られたアルミパネルはダークな雲や小さな青空、まだまばらな木々を映し出し、近寄ると緑と黄色の草花そして自分の影、建物の存在が消へていきます。室内はもっと不思議、広い空間の中で展示物の存在感は薄く両側の壁に映し出される入館者の動きに見いってしまいます。

小学生でしょうか、何組かに分かれたグループが展示品の前に座り込み、説明を熱心に聴きノートを取っている姿が印象に残っています。

建物の存在を自ら消していくようなまことに不思議な建物でした。



●Citi de la Musiqueの新大ホール

巨大なモニュメントのような外観。ロビーの巨大な柱はニューヨークの自由の女神を思わせる骨組みでした。展示ホールではデビットボウイの展示が開催されていました。磨きだされた外部通路の壁に行き交う人たちの姿が映し出されます。でも何故か20年近く前に作られた緑の森の公園になじんでいます。パリの北東、ラ・ヴィレットにあります。バスチユからクルーズ船でサンマルタン運河をたどるルートで行くのも楽しいところです。



●第一次世界大戦博物館



アンリ・シリアーニの作品です。だいぶ以前パリの本屋で見つけた彼の作品集の表紙に載っていて、以来いつか見てみたかった建物です。第一次世界大戦の激戦地ソムムのペロンヌという町にあります。Lensの手前、幹線で真っ直ぐ行けばパリから40分くらいの場所にあります。大聖堂で知られたアミアンまで行き、そこから列車を乗継ぎ更にバスを使ってやっと辿り着きます。中世の石造りの城郭のなか、大きな池の淵に建ち、白い柱を水中に落とした静かな趣の建物です。

色とりどりの草花が咲く緑の庭とそこの静けさは戦没者への鎮魂なのでしょうか。ここでも学生がバスを連ねて勉強に来ています。兵器は今から見れば幼稚なものに見えますが当時としては新しく恐怖に満ちた物だったので、一方兵士が身に付けている装備の多くは日常に使う道具と同じようなものでした。



られていることが多いようです。建て替え中のレアールの街中やベルビル公園の鮮やかな黄色いレンギョウの群れが印象的でした。

4月にこちらに来たのは初めてですが、日本の春に似た景色にはびっくりしました。桜（に似た樹）は並木で植えられている場合は少なく玄関や庭先に1本で植え



委員会活動報告 ～「景観・まちづくり専門委員会」～

景観・まちづくり専門委員会 委員長 寺本 勉

景観・まちづくり専門委員会では、景観整備機構の指定に向けた活動を中心にさまざまな取組みを進めています。

活動フローとしては、以下のようにフェーズを定めて実施しています。

F1.「景観・まちづくりに関するアンケート」

(対象:神奈川県内の景観行政団体である市町村、2013年実施回答集計)

F2.上記アンケートにて景観整備機構の指定ができると回答のあった6自治体のエリアの支部のうち4支部にてキャラバンを実施(2013年)

※相模原、伊勢原、県西、横須賀の各支部

F3.上記キャラバン実施のエリアにてまちあるきを企画実施(2014～2015年)

F4.まちあるきによる情報や調査等のデータ分析と提案の作成(2015年～)

F5.上記提案をエリアの自治体や関係団体へ提示(2015年～)

F6.上記提案を基にした実績づくりと景観整備機構の指定(2015年～2016年)

2015年においては、フェーズ3～5を順次進めていますが、各エリアにおける活動をご紹介します。

昨年11月に「湯河原のまちあるきと旅館建築探訪」を開催しましたが、その際に参加者の皆様に記載頂いた調査票を整理分析しました。この内容と委員会メンバーにて実施したフィールドワークによる情報および町や県より入手した温泉源泉位置・利用場所データとあわせ、湯河原町の景観資源調査の提案を作成しました。

現在、提案等を提示するために湯河原町との予定を調整しています。

今年5月には横須賀のまちあるき「浦賀道と看板建築」を横須賀支部のご協力を頂きながら実施しました。ここでも調査票によりデータ収集分析を行い、各方面への提案を現在作成中です。とりわけ寺坂邸においては、見学された多くの方の高い評価を得ており、有形文化財登録等も視野に入れた方向性を取りまとめて提案できないか検討をしています。

また、9月12日には相模原支部のご協力を頂きながら相模原のまちあるき「陽原段丘と相模野をめぐる」を開催します。ぜひ多くの方のご参加をお待ちしております。

そして、伊勢原においては、小中学校の学生も参加し

ている市主催の景観写真コンテストの記録を基にしたビュースポットマップの作成を伊勢原市と協働事業として取り組む方向で協議をしています。協議過程においては、伊勢原市まちづくり審議会における審議会委員推薦依頼のオファーなども得つつ、実績づくりを着実に進めています。また、まちあるきの企画としては12月5日に大山日向方面や市街地にてまちあるきを計画しています。

まちづくり活動のほかに、当委員会では2011年に発生した東日本大震災を契機にして神奈川県より委託を受け、神奈川県応急仮設住宅調査を毎年実施しており、今年3月には4回目となる報告書を取りまとめて提出をしました。この活動の流れの中より、6月には神奈川県と「災害時の住宅対策に関する協定」を締結するに至りました。また、7月には県内の自治体担当者が集まる神奈川県災害検討部会において応急仮設住宅シミュレーション訓練のオブザーバー参加にて協力をしました。

神奈川県応急仮設住宅調査については、これまでの実績が評価され本年度も委託がありました。協定締結ともなりましたので、本年度からは、新たに設立されました技術専門委員会との連携を図りながら協会全体で本調査事業等の活動ができる体制へステップアップされることを期待しています。

このようにいろいろな方面へ活動が展開しているため、当委員会では「新たな仲間を大募集！」しています。まちづくりに興味のある方は、ぜひ委員会活動ご参加ください。

また、委員会の活動についてはこれまでFaceBookにて不定期に発信をしていましたが、新たに委員会のWEBページを開設しました。委員会の活動だけでなくあちこちのまちの情報や各支部の皆様とのまちについての情報交換などができる「まちの寄合い処」的なサイトにできたらと考えています。ぜひこちらもお覧ください。



FaceBookページ
<https://www.facebook.com/k.keikan>



委員会オフィシャルWEBサイト
<http://www.j-kana.or.jp/kmachi/>



新入会員のご紹介

7月入会者

横浜支部

株式会社システムデザイナー一級建築士事務所 秋山 芳美
〒224-0001 横浜市中区中川4-8-64
TEL.045-912-0154 FAX.045-912-0199

川崎支部

露木建設株式会社一級建築士事務所 露木 直義
〒216-0001 川崎市宮前区野川Mar-25
TEL.044-766-6561 FAX.044-788-7622

藤沢支部

インフィニティー 松永 純一
〒251-0057 藤沢市城南3-1-33
TEL.090-8085-8500 FAX.045-345-0746

8月入会者

横浜支部

ナイスホーム株式会社一級建築士事務所 清水 勝
〒230-8571 横浜市鶴見区鶴見中央4-33-1
TEL.045-505-5714 FAX.045-505-5724

藤沢支部

有限会社古沢設計スタジオ 古沢 隆夫
〒251-0051 藤沢市白旗3-12-13
TEL.0466-82-4575 FAX.0466-82-4575

退会者

横浜支部

株式会社イセキ 馬場 勸介
竹内二級建築士事務所 竹内 俊雄
有限会社 戸田設計 庄司 登

平塚支部

有限会社スケルトン 佐々木正二

秦野支部

有限会社工建二級建築士事務所 松本 武

相模原支部

一級建築士事務所 有限会社唐澤工務店 唐澤 正剛

賛助会退会者

NTT東日本 神奈川支店

会 勢

平成27年 8月15日現在

支部名	平成26年3月末日	現在	入会者	退会者	増減
横 浜	264	268	12	8	4
川 崎	105	104	5	6	-1
横 須 賀	51	50	0	1	-1
湘 南 三 浦	17	17	0	0	0
藤 沢	25	28	3	0	3
鎌 倉	38	36	0	2	-2
茅ヶ崎寒川	19	18	0	1	-1
平 塚	21	20	0	1	-1
秦 野	20	18	0	2	-2
伊 勢 原	8	9	1	0	1
大和綾瀬	18	17	0	1	-1
厚 木	32	33	1	0	1
座 間	12	12	0	0	0
海 老 名	14	14	0	0	0
愛 川	7	7	0	0	0
相 模 原	76	75	3	4	-1
県 西	42	41	0	1	-1
合 計	769	767	25	27	-2
賛助会員	79	75	0	4	-4

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。

編集者のつぶやき

新年度を迎え、白川委員長のもと、新たなメンバーと共に広報情報委員会がスタートしました。これから2年間よろしくお願い致します。会員の皆様にとって、役に立つ情報を盛り込んだ楽しい会報を目指し、頑張っていきたいと思ひます。現在、当委員会ではホームページリニューアルワーキングチームを立ち上げ、更なるホームページの可能性を追求しうる検討を行っています。来年度の完成に向けて頑張っていますので、ホームページもご期待下さい。

また、前期まで長きにわたり、当委員会の担当副会長としてご尽力いただきました、芝前副会長が退任されることになりました。長い間、前向きで活発なご意見、そして暖かいフォローありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。後任には小渡副会長が担当となりました。よろしくお願い致します。

ところで、近代建築群が世界遺産等として市民に注目される中、地元横須賀では、日本の近代化をけん引した、横須賀製鉄所(現米軍基地)関連の施設や、戦争遺構が注目されています。

先日参加した、「近代日本のルーツ横須賀の歴史遺産“守り・支え・伝える地盤の技術”」という横須賀市・地盤工学会主催の講演会では400人を越える参加者となり、市民の歴史遺産への関心が伺われました。今年、横須賀製鉄所は創設150周年を迎え、関連した歴史ツアー(米軍基地へ入れるツアーもあり)や講演会が行われます。(横須賀市HP参照)開国から現在までの歴史を感じることが出来る街“横須賀”是非ともお越し下さい。

最後に“つぶやき”として、全国で近代遺産(建築群)等が市民に公開され評価される中、最近使用頻度の少なくなったタイルや煉瓦の再認識を期待します。

本日8月15日、神奈川県庁本庁舎で行われる「歴史ある建築物と光のショーを楽しむ夕べ」を楽しんでください。

【横須賀支部 小泉 厚】



かながわ 平成27年9月号(通号398号)

発行 平成27年9月1日(奇数月1日発行)
発行人 小林 忠志
発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 第3不二ビル2F
TEL. 045-228-0755/FAX. 045-212-3807
印刷所 株式会社 柏苑社

担当副会長 小渡 佳代子
広報情報委員長 白川 正孝
広報情報副委員長 三村 邦彦 小泉 厚
広報情報委員 恩田 耕爾 清田 鈴美子 新倉 良一
小井口 英寿 坪井 教一 杉本 勝郎
神尾 明美
事務局 小林 恵美



今月の表紙

横浜市大倉山記念館

大倉山記念館は、昭和7年北海道銀行本店、横浜正金銀行東京支店など重厚で格調高い建築を数多く手がけ、日本建築史に大きな足跡を残した古典主義建築の第一人者、長野宇平治の設計によるものです。独特の様式美を持つ外観ですが、内部も中央階段ホールの吹抜けが重厚な雰囲気醸し出しています。